

平成26年度北九州市食品衛生監視指導計画実施結果に対する  
市民意見の概要及び市の考え方について

意見の項目		意見の概要（意見提出者）	北九州市としての考え方
実施結果について	2 監視指導の実施結果（基本的事項）	<p>検査施設数や検体数、実施回数などの数値が結果として記載されているが、その数値について、適正な数値なのか、多いのか少ないのか、また、例年と比較して増減はあるのかなどの判断ができない。</p> <p>検査件数や実施回数などの結果数値について、最低限、前年数値との併記を検討していただきたい。</p>	<p>年度により検査件数等が大きく変動しないように、監視指導計画の策定及び実施をしていますが、今回の意見を受けて、実施結果の表記方法を検討します。</p>
	3 監視指導の実施結果（事業別） (2) 市内流通食品の衛生対策【P6】	<p>多種多様な検体の検査結果として、違反等が少ないことは、生産者や販売店への指導などが徹底されていると思われ、これまでの地道な監視指導計画実施の結果であり、とても評価できる。</p>	<p>今後とも監視指導計画に基づき、監視指導をしっかりと行ってまいります。</p>
		<p>最近は多くのコンビニエンスストアで、店内調理の加工食品が多く販売されている。それらの監視指導や収去検査は実施されているのか。多数の来店がある店内での調理に対する衛生管理や、アルバイト従業員への衛生教育等の実施については、今後更に重要なものになってくると思われる。</p>	<p>店内調理の食品については、工場で製造された製品を仕入れ、店内で再加熱又は加温を行って提供しているものであり、食中毒等を起こす可能性が低いと判断し、収去検査は行っておりません。</p> <p>監視指導については、現在も行っており、今後も状況に応じて対応してまいります。</p>
3 監視指導の実施結果（事業別） (2) 市内流通食品の衛生対策 ② 獣畜等の処理の適正確保事業【P6】	<p>と畜検査と食鳥検査での検査結果における全部廃棄や一部廃棄の数値について、この数値が多いのか少ないのか、全体に占める割合がどの程度なのかはわかりませんが、実態としてその件数が発生していることは改善の余地があると言えます。産地自治体との情報交換や生産者への情報提供などでの再発防止を期待する。</p>	<p>過去3年間の推移を見ると、牛、豚共に全国、県内の廃棄率より20～40%低い傾向、鶏の全部廃棄は高め(市1.5%、全国・県0.7%)となっています。</p> <p>産地自治体との情報交換や生産者への情報提供については、適宜行っており、今後も実施してまいります。</p>	